

めまた 市議会だより

第82号

6月定例会

令和8年
8月1日



「森の博物館 玉原」 自然共生サイト
認定記念事業 自然散策会

令和8年6月7日開催

内容 6月定例会
政務活動費報告 など



沼田市議会HP

6月 定例会

6月定例会は、6月2日に開会し、12日までの11日間、専決処分報告、条例改正、令和8年度補正予算など計22件と、議会からの請願1件を審議しました。

また、11人の議員が一般質問を行い、市当局と活発な議論を展開しました。

物価高騰対策として てんぐーカードを配布予定

物価高騰対策として、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用したてんぐーカードの配布を予定しています。

配布時期や方法、金額などはこれから検討されます。

質疑

Q電子地域通貨てんぐーに関わる事業内容について

A国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した物価高騰対応事業で、市民を対象とした電子地域通貨てんぐーの定額カードの配布を予定しています。

Q子供から高齢者を含めた全ての市民に対して配布するという理解でよいのでしょうか。

A市民全員を対象に定額のてんぐーカードを配布することを考

えています。

Q物価高騰対策として、電子地域通貨事業を選択した理由は。

A今回は生活者支援を第一の目的としています。さらに事業者支援、市内への経済波及効果にもつながるということを考えた結果、定額のとんぐーカードを配布することが、交付金の活用にとって最も効果的であると判断しました。



第七次総合計画に関する特別委員会、議会改革特別委員会を設置

議会の立場から沼田市の将来の方向性を定める総合計画について調査・研究を行うための「第七次総合計画に関する特別委員会」、議会改革に関する調査・研究を行うための「議会改革特別委員会」を設置しました。

第七次総合計画に関する特別委員会

山宮敏夫委員長

齋藤智副委員長

議会改革特別委員会

茂木清七委員長

木内修一副委員長

戸部博議員が群馬県都市監査委員表彰を受賞

長年にわたる監査委員としての職務などが評価され、戸部博議員が群馬県都市監査委員表彰を受賞されました。

人事案件

副市長の選任（同意）

安藤 均 氏

このほか、農業委員会委員15名の任命について同意しました。

常任委員会

総務文教常任委員会 地方財政に関する請願審査

「地方財政の充実・強化に関する意見書の提出を求める請願」について、常任委員会で慎重な審査を行った結果、全会一致で「採択すべきもの」と決し、国に意見書を提出することとなりました。

審査の過程では、「物価高騰により地方財政は厳しい状況であり国民が幸せに暮らすには国の支援が不可欠である」、「国の施策に伴って自治体における負担については国が財源措置すべきである」、「地方財政の充実・強化は、市民の安全安心な暮らしにつながる重要なものである」、「自主財源の確保が厳しい地方公共団体の負担軽減のためにも、国の財政支援が必要である」、「個別的な制度について市民の利便性や個人情報保護とのバランスを慎重に見定めながら丁寧な議論が尽くされるべきである」などの意見がありました。

市政を問う!!

一般質問

「実感できる」子育て環境の整備について

星野 妙子



【Q】市長は選挙期間中の公開討論会において、ゼロ歳児から2歳児の保育料無償化について、段階的な対応を示しました。実現すべきと思いますが保育料無償化について伺います。

【A】国や県に全国一律の保育料無償化の要望を行い、段階的な実施を含め、調査・研究をしていきたいと考えています。

【Q】路線バス「高校生通学定期券購入補助」補助率は、購入費の30%となっています。子育て世帯の家計状況は厳しく、遠距離バス通学世帯にとっては深刻です。補助率の拡充について伺います。

【A】本年3月から割引率が変わりましたが、実質的な値上げになりました。同補助制度は子育て世帯の支援策として重要であり補助率を含む制度拡充について研究していきたいと考えています。



高校生通学定期券購入補助

【Q】沼田横塚産業団地の造成工事が進む中、給水・電力の供給能力および誘致の進捗状況について伺います。

【A】上水道による供給を予定し送水設備の更新に取組むとともに電力は電力事業者からの供給となる予定で協議について支援を行っていると思います。立地を検討している企業と意見交換を行い、各種ニーズの把握に努めています。

【Q】来訪者に分かりやすい観光案内板のデザイン統一について伺います。

【A】観光案内板の統一は、分かりやすい案内表示や景観の向上などのメリットが考えられます。維持管理、費用面について検討が必要だと認識しています。

【Q】利根町平川古滝庵不動尊の法面から巨大な石が落下した治山・安全対策について伺います。

【A】昨年、県に要望しましたが採択になりませんでした。引き続き法面の状況等を注視していきたいと考えています。

安全安心に暮らせる豊かなまちづくり

山宮 敏夫



【Q】人的および農作物に対する熊被害対策について伺います。

【A】通報を受け、市調査員が現地に出向き、出没や被害状況の把握、痕跡や誘因物の確認等を行っていると思います。また、状況に応じた迅速な注意喚起と情報発信に努め、防護柵設置補助金、追い払い資材の提供、防除や捕獲に向けた資材の整備、狩猟免許取得補助金、鳥獣被害対策実施隊活動に関する情報発信などに取組んでいます。

【Q】地震および震災、風水害の対策と予測について伺います。

【A】本市において、震度5強から震度7が想定されていますが、平時の備えとして、計画的に備蓄品の整備を進めるとともに、市民一人ひとりの防災意識の向上に努めています。また、風水害については、把握した情報を緊急告知FMラジオや防災行政無線、防災アプリ、ホッとメールぬまたなどにより、速やかに発信しています。さらに、新しい防災

気象情報の周知に努めるとともに、各町の自主防災組織とも連携を図りながら、防災に強い地域づくりを進めていきたいと考えています。

【Q】戦略的な経済活性化の取組について伺います。

【A】本市の経済活性化に向けては、地域資源を生かした地域の稼ぐ力の向上を基本的な考え方とし、経済団体と連携し企業等の支援を推進するとともに、持続可能な地域経済の構築を目指していきます。また、企業誘致全般については、情報発信や企業訪問を実施し、意見交換を継続しているところですが、沼田横塚産業団地については、様々な企業から一定の関心や問合せをいただいているところですので、引き続き注視していきたいと考えています。

再生可能エネルギー
Renewable energy

一般質問

都市計画道路について

小野塚 正樹



【3・3・1環状線東原新町工区について】

【Q】国立病院機構沼田病院の開鎖に伴う緊急車両の流入変化や、大型ショッピングモール開店による交通量増加、さらに今後予定される栄町工区開通による速度超過など、周辺環境は大きく変化していくことが想定されます。

そこで、東原新町工区の現在の計画状況と、本路線をどのような役割として位置づけているのか伺います。

【A】先行する栄町工区については、令和十一年度の工事完了、令和十二年度の全面開通を目指し整備を重点的に推進しているところです。

その東側に位置する(仮称)東原新町工区については、本市の財政状況を慎重に考慮しつつ、関係機関との具体的な協議を進め、事業認可を取得した上で、順次事業に着手していきたいと考えています。



安全運転にご協力を

【安全対策の必要性について】

【Q】道路整備においては、全ての人の安全確保が重要です。

将来的な交通変化を見据え、安全対策をどのように認識しているのか伺います。

【A】かねてより危険性が指摘されてきた路線であり、これまでソフト・ハードの両面から様々な対策を講じてきたところです。

また、今後は環状線の開通や学校の統廃合等により、さらに交通量の増加が見込まれる路線であることから、危機感を持って対応していく必要があります。

持続可能な行政運営と教育支援について

鈴木 誠



【Q】電話対応等の業務における職員負担と課題について伺います。

【A】電話対応業務は、住民サービスを提供する上で、重要な手段の一つであると認識しています。

一方で、長時間にわたる対応や繰り返し問合せなどによる職員への負担については、課題であると捉えています。

【Q】業務効率化とデジタル活用について伺います。

【A】持続可能な行政サービスを提供し続けていくため、本市にとって最善の施策となるよう、取り組めます。

【Q】市内小中学校における支援学級等の現状について教育長に伺います。

【A】現在、本市における特別支援学級においては、188名の児童生徒が在籍しており、これは、市内全児童生徒数の7・3%に当たります。

【Q】情緒学級における学習支援体制及び課題について教育長に伺います。



【A】児童生徒に対して、個別の教育支援計画を作成し、適切な指導や支援を行っています。課題としては、特別支援学校教諭免許状所有者の配置が追いついていない状況があります。

【Q】退職教員や教員免許を有する人材の活用、並びに特別支援学校教諭免許状取得推進を含めた支援体制の充実について教育長に伺います。

【A】退職教員や教員免許状を有する人材の積極的な活用を図っていますが、難しい状況です。少しずつ特別支援学校教諭免許状所有者の確保がなされているところであり、また担当教諭の資質向上を図るため、本市独自の研修会についても、継続的に実施していきたいと考えています。

市政を問う!!

市政運営 市民生活と地域経済 歴史資料館

大東 宣之



Q2期目の市政運営に臨むに当たり市政の課題についてどのように考え、課題解決に取り組むのか伺います。

A浄水場やごみ処理施設など社会インフラの維持・更新、沼田横塚産業団地の造成などの大型事業をはじめ、少子化や人口減少対策など、先送りできない多くの課題を抱えています。市民との対話を大切にしながら、各種施策にしっかりと結果を出し、持続可能なまちづくりに取り組んでいきます。

Q市民のくらしを支え、満足度、安心感をどのように高めるのか伺います。

A市民自らが社会課題の解決やまちづくりに主体的に関わっていただくとともに、未来への投資と、自然と経済の好循環を創出する施策を推進し、安心感や満足度を高められるよう努めたいと考えています。

Q物価高騰や資材不足等に対する事業者や市民へどのような支

援を考えているのか伺います。

A事業者に対しては、関係機関と連携しながら、支援制度等の情報提供や相談対応に努め、市民生活への影響についても、状況を注視し、国や県の支援制度等の動向を踏まえ、必要な情報提供に努めます。

Q歴史資料館での資料の収集、情報の発信、資料の提供、常設展示の展示内容の充実についてどのように取り組むのか教育長に伺います。

A特色ある地域文化の継承ならびに歴史資料の適切な保存を行うとともに、資料の収集や情報の提供に努めていきたいと考えています。常設展示については、財政面など考慮しつつ研究していきたいと考えています。



沼田市歴史資料館

姉妹都市記念事業 世界情勢緊迫化の対策

今成 敦子



Q「白浜伊古奈桜」記念植樹事業の進捗状況について伺います。

A下田市との長年にわたる友好の歴史を象徴し、次世代へ姉妹都市交流の意義を伝えていく事業であり、記念樹が将来にわたる市民の皆さまに親しまれ、未永く成長を見守っていただけるよう、現在、下田市と調整を行いながら準備を進めています。

Q今後の姉妹都市交流の発展について伺います。

A双方の地域資源を生かしながら幅広い分野における交流の可能性を研究していくとともに、市民参加型の交流を継続・発展させる取組の一つとして、両市の広報誌において、交流の歴史や観光、特産品などを紹介する企画を予定しています。



下田市役所河内庁舎にて記念植樹

Q世界情勢の緊迫化による石油の供給不安と食料安全保障の観点から、国や県の制度活用を検討や農家への農業継続支援、備蓄肥料の確保など、本市の対策について伺います。

Aナフサ不足や燃料、肥料、石油由来の資材価格の高騰により、一部の資材に入手困難な状況が生じていると認識しています。農業者の皆さまが、どのような支援を必要とされているのか、状況把握に努め、群馬県や利根沼田農業協同組合などの関係機関と連携を図っていきたいと考えています。

Q市民生活を直撃する物価高騰対策について伺います。

A引き続き市民の生活環境の現状把握に努めるとともに、生活支援策については、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、食料品等の物価高騰支援を目的として、電子地域通貨事業による補正予算案を本定例会に上程しています。

一般質問

森林文化都市を「形」にしていく
地域づくりと観光振興

木内 修一



【Q】森林文化都市の取組と課題、市民への浸透について伺います。

【A】森林文化都市宣言は、平成2年に宣言されて以来、市民憲章と並ぶ本市のまちづくりの基本理念として市政運営の指針となっています。令和7年1月には森林文化都市アクションプランを策定し、取組を進めています

が、事業計画案の具体化と市民との理念共有が課題であると認識しており、今後も情報の共有と発信、そして理念の共有に努めていきます。

【Q】森林文化都市を具体的な地域づくりにつなげ、どう市民の実感へと構築していくのか伺います。

【A】人と自然が真にふれあう理想のまちの実現を目指しています。森林資源の循環利用や木材利用の促進、観光や教育との連携などを通じて、本市特有の魅力と価値を高め、持続可能な地域づくりにつなげていきます。また、理念の具体化と見える化を図りながら、市民が森林や農林業の

価値に触れ、環境価値と経済価値の両立を図り、市民が実感できる森林文化都市の実現に向け取組んでいきます。

【Q】森林や里山、棚田などの地域資源や、玉原高原を生かした観光振興について伺います。

【A】豊かな森林や里山、棚田などは本市ならではの魅力ある地域資源であると認識しています。また、玉原高原はブナ林をはじめとした豊かな自然環境を有する本市を代表する観光資源です。近年は体験型観光への関心が高まっていることから、グリーンツーリズムや自然体験を通じた観光振興につなげていきます。

また、池田地区をはじめとした水田や果樹園、里山などは交流人口や関係人口の拡大につながる可能性を有しており、地域資源を生かした交流や観光の可能性について研究してまいります。

【Q】市営住宅の建て替え状況、空き室状況と住宅供給の課題について伺います。

【A】現在22団地、計341戸の市営住宅を管理しており、沼田市市営住宅長寿命化計画に基づき、住戸改善により将来的な需要への対応と長期的な維持管理の実現に努めています。

空き室状況は、募集停止による政策空き家を除く空き住戸は、33戸となっていますが、同計画により、募集停止・用途廃止を進めていくことで減少が見込まれます。

【Q】空き家の状況と解消に向けた課題を伺います。

【A】統計調査によりみると、空き家総数は4,510戸、空き家率は19・3%です。建て方別では、一戸建てが最も多く3,040戸で67・4%、次いで長屋建・共同住宅・その他が1,470戸で32・6%となっており、少子高齢化・人口減少等の社会構造の変化により、今後も全国的



新たな住生活基本計画に対応した居住環境

高柳 勝巳



に空き家は増加していくものと予想されます。空き家の増加を防ぐことは困難な状況ですが、啓発や空き家解体補助金の活用による除却を促進し、安全や景観の向上とともに、居住環境の改善を図っています。

【Q】新たな住生活基本計画の受け止めについて伺います。

【A】時代の流れに即した計画の必要性を踏まえ、空き家の増加問題や、高齢者・子育て世帯への居住支援など、多岐にわたる課題への取組が必要なことから、関係各課と連携を図りながら、その在り方について研究していきたいと考えています。

【Q】統計調査によりみると、空き家総数は4,510戸、空き家率は19・3%です。建て方別では、一戸建てが最も多く3,040戸で67・4%、次いで長屋建・共同住宅・その他が1,470戸で32・6%となっており、少子高齢化・人口減少等の社会構造の変化により、今後も全国的

【Q】新たな住生活基本計画の受け止めについて伺います。



市政を問う!!

国民健康保険の財政運営

空き家対策の推進

齋藤 智



国民健康保険の財政運営について

【Q】保険税水準の統一化における本市のメリットとデメリット、また現時点の進捗状況について伺います。

【A】メリットは、県単位での保険税水準の統一化により、保険者にとっては、高額な医療費の発生等による年度間の保険税の変動が抑制されること、また、被保険者にとっては、群馬県内いづれの市町村に住所を有していても、同一の保険給付を同一の保険税負担で受けられ、被保険者間の公平性の確保が図られることが挙げられます。デメリットは、独自の保険税率の設定ができなくなることから、これまで保険税率が低かった市町村においては、保険税率が上昇する可能性があります。現在も市町村ごとに収納率の差異があり、県単位での保険税水準の統一化により、収納率の高い市町村が低い市町村の分をカバーするこ

とになる可能性があるため、市町村間における不公平感が生じることも想定されます。現時点の進捗状況については、県において令和15年度の保険税水準統一化に向けた検討が進められており、本市も県および県内市町村と連携を図りながら、必要な調整、検討を行っています。

【Q】予防型対策の推進について伺います。

【A】空き家が発生する原因の多くは、相続によるもので、居住者が健在なうちにご家族で十分に話し合い、将来の方針を決めておくことが重要であると考えています。「住宅を空き家にしない」という意識啓発や、所有者等への働きかけを通じ、空き家の発生抑制に努めたいと考えています。



選ばれる沼田市になるための取組、沼田の魅力発信

齋藤 育子



【Q】統廃合後の小学校を活用し、大型遊具を備えた新たな遊び場を設けることについて伺います。

【A】新たな大規模施設の整備は容易ではない現状にありますが、子どもたちが健やかに育つ環境を整えることは、選ばれる沼田市になるために重要な課題であると認識しています。

【Q】本市に在住する新社会人への就職祝い金について伺います。

【A】地域で活躍する人材の支援に資するものであり、魅力ある雇用の場や環境づくりも重要であると考えています。

【Q】テラス沼田のテラススペースからの景観にスポットを当てた見せる観光について伺います。

【A】四季折々の風景や山並みなどをSNS等で継続的に発信することや、「景色の良いまち・沼田」としてのイメージづくりや誘客促進につなげていきたいと考えています。

【Q】360度の景色を見渡せる立体駐車場の屋上を利用した集客

について伺います。

【A】本市ならではの景観を感じられる場所の一つであり、こうした景観資源の魅力発信について研究していきたいと考えています。

【Q】本市と関係のある自治体との新たな相互交流について伺います。

【A】本市の自然や農業資源を生かした体験型交流、ワークショップをはじめとする滞在型交流については、今後のニーズの高まりが見込まれるものと考えています。

【Q】自然共生サイト認定「森の博物館 玉原」の今後の展望について伺います。

【A】モニタリング調査などにより生物多様性の維持および保全を図りながら、「多様な活動の森」として活用していきたいと考えています。



テラススペースから望む子持山

奨学金返還支援、3歳未満児の保育料無償化

井上 弘



【Q】大学を卒業したばかりの若年層にピンポイントでアピールできる奨学金返還支援は非常に有効な支援であると考えられます。沼田市の若者層の転入増加策にもなる奨学金返還支援施策の研究状況はどうなっているか伺います。

【A】奨学金返還支援施策は、若者支援の一つの方策であると認識していますが、まずは既存の若者定住施策や子育て支援、雇用対策を通じた若年層への支援に取組んでいるところです。

引き続き、他自治体の導入状況やその効果、国・県の動向などを注視しつつ、限られた財源や人的資源の中で、施策全体の優先順位を踏まえながら、既存施策の充実に取組むことが重要だと考えています。

【Q】1人目、2人目の子供に対する支援を厚くしなければ、若年層、子育て世帯に沼田市を選んでもらうことにはつながらないのではないかと考えます。保育

料軽減を拡充し3歳未満児の保育料を無償化することについての検討状況はどうなっているか伺います。

【A】本市の保育料は、国の基準より低く設定するとともに、本市独自の施策として、第3子以降の完全無償化や、ひとり親世帯等の軽減範囲の拡大を行い、継続して子育て世帯の負担軽減を図っています。

3歳未満児の保育料無償化については、財政負担が多額となることから、国や県に対して、全国一律での無償化について、継続して要望を行うとともに、国や他市の動向等、情報収集に努めています。



令和7年度 政務活動費収支報告

（令和7年4月1日～
令和8年3月31日）



会 派 名	人数	交付額	支出額	戻入額
沼田創生会	7人	840,000円	754,556円	85,444円
齋藤 智（会派外議員）	1人	120,000円	107,406円	12,594円
鈴木 誠（会派外議員）	1人	120,000円	0円	120,000円
大東 宣之（会派外議員）	1人	120,000円	97,594円	22,406円
井上 弘（会派外議員）	1人	120,000円	113,829円	6,171円
今成 敦子（会派外議員）	1人	未申請		
星野 妙子（会派外議員）	1人	未申請		
山宮 敏夫（会派外議員）	1人	未申請		
高柳 勝巳（会派外議員）	1人	未申請		
野村 洋一（会派外議員）	1人	未申請		
茂木 清七（会派外議員）	1人	未申請		

※ホームページで会派別に支出明細、領収書写、視察報告等を公開しています。

編集後記

盛夏の候、厳しい暑さが続いています。初夏に開かれた6月議会での議論を振り返りながら、本号をお届けします。

6月議会では、一般質問などで市民生活に直結する様々な課題について、多角的な視点から議論を重ねてまいりました。人口減少や地域経済の活性化、公共交通の維持、防災・減災対策など、沼田市を取り巻く課題は年々複雑さを増しています。

こうした時代だからこそ、机上の議論にとどまらず、現場に足を運び、市民の皆さまの声に直接耳を傾ける姿勢が何より重要だと感じています。地域の声の中にこそ、課題解決へのヒントや未来への希望があると信じています。

市議会としては、市民の皆さまとの対話を大切にしながら、誰もが安心して暮らし続けられる沼田の実現に向け、誠実に取り組んでまいります。

議会だより編集委員

山宮 敏夫